

# 図書だより

〈才5号〉

昭和56年12月20日

呉工業高等専門学校  
図書委員会

ま え が き

図書委員長代理 久保田 勲

図書だより才5号を発行します。今回は学生会文化委員長に、従来殆ど投稿のなかった1年生諸君からの原稿を募っていただきました。

一般のアンケートでは、図書だよりの感じが固苦しい、もっとくだけたものにせよ、との意見がありましたが、活版印刷で装いを新たに才4号および今回の才5号のフィーリングはどうでしょうか。活字を茶色にしたこと、写真を入れたこと、「図書だより」の見出しのデザインなど、我々としても苦心したところですが、感想を聞かせてほしいものです。君達の意見をとり入れながら編集して行きたい。ただ、固苦しいものには勿論したくないが、併し余りに低俗なものになるのは避けたい。高専生としての教養に応じた内容は保ちたいと思います。

アンケートに、趣味・娯楽的な本がほしいとの意見が非常に多かったので、次の雑誌を追加購入することになりましたので、大いに読んで下さい。

「FMファン」「モーターファン」「アサヒカメラ」「映画の友」「旅」「SFマガジン」「週刊朝日」「小説新潮」「オール読物」「太陽」そして「時刻表」。

また「カラーボックス」も大量に備え付けますので、図書館利用の動機づけとなることを念じています。

閲覧室のロッカーも場所の許す範囲内で増やすことにしました。

アンケートに、図書館で騒ぐ学生に注意を与えてほしい、図書を元の位置に戻さない者がある、スリッパが乱雑だ、などの意見がありましたが、これらのマナーは学生諸君自身で確立してほしい。諸君は「生徒」ではなく「学生」だから、もう先生から言われる前に、自分自身の行動でこれらの問題を解決してほしい。解決するのは君達自身以外の誰でもない。「スリッパは乱雑にならないように」との掲示を貼りましたが、こんなものが不要になるような教養人になって下さい。何時これを撤去できるかと思ひながら、諸君のマナーの向上を見守っています。

なおアンケートの結果は、図書だより才6号で特集として載せる予定ですから御期待乞う。

## 「郵便殺人」を読んで

1A (匿名希望)

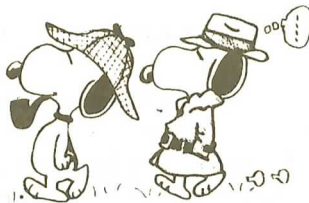
探偵が登場しあらゆる謎を解き、万歳で終わるばかりが推理小説ではありません。悪漢だけを扱い、犯罪者たちの狡猾な行為を取りあげたものだってあるのです。主題は犯罪、主人公は犯罪の成功者、それがこの「郵便殺人」です。

ストーリーは、上役のエコヒキに耐えきれず、ライバルを殺してしまう、といったところ。殺人者の手口も巧妙なことから、それにも増して、彼の冷静な態度にぞっとさせられます。(元来、完全犯罪者とは、こういった人間なんだろうけれど)

また、この小説のおもしろさは、一人称で書かれているところにあると思います。特にラストの捨て台詞。成功者でありながら、ひがみとねたまたっぶりなところがおもしろいのです。物語の展開に不可欠な緊張と緩和のバランスのよくとれた作品だと思います。

「郵便殺人」は、ごく短い作品なので、残念ながら単独ではお目にかかれないのです。どうしても読みたい方は、E. クイーン編の「完全犯罪大百科」をお探しください。

犯罪の捜査を主題とした推理小説に飽きたらこんな小説はいかがですか？それにしても、好きなだけ犯罪を犯して、まんまと法の網をくぐり、罰せられずにいられるなら、こんな素敵なことって他にはないと思いませんか？(Howard Spring Murder by Mail)



## 「伊豆の踊子」を読んで

3M 原田 義 則

ぼくは、「伊豆の踊子」が好きだ。

たぶん大人になって、年老いても相変わらず好きだろう。

初めて読んだときは、別れの悲しみゆえに踊子と学生とがとてもかわいそうに見えた。だから、最後に学生が流す涙は、悲しみの涙だけだと思っていた。

しかし、今読んでみると前とはちがった感想が浮んできた。別れのときの悲しみがあることにはあるが、そ

れよりも軽やかなそして爽快な感じがするのです。あの学生が流した涙を自分も流してみたい。また、そんな涙を流すことのできた学生が、うらやましく思えて来る。ぼくも、いつかそのような体験をしてみたいなどと考えて、想像さえもしてしまう。その中で、ぼくも別れのとき泣く。帽子で顔をかくすようにして、そして涙だけが流れている。しかし、その口もとには、少しの微笑がある。

その微笑には、少しの喜びと少しの満足感がある。一時的に、別れは悲しいが、それが思い出として残る大きさの方がかぎりなく大きい。また、この本を読むたびいつも思うのは、踊子がたくみなくらい清純無垢に描かれていることです。踊子の話す言葉一言一言、踊子の動作一つ一つが印象深く心に残るのです。そんな踊子にひかれていく学生の気持などは、ぼくにもよくわかる。ぼくもこんな少女がいたら、あとに悲しい別れがあるとしても、引かれていくだろう。

話しは変わるが、ぼくはこの作品を映画化したのを見たことがある。とてもいいできだとぼくは思っている。踊子の清純無垢さや学生の心の動き、周りの人たちの動きなどよくでていたと思う。ただ一つ言うとならなかつたのか。ぼくはあのシーンを自分の頭の中に映し出すことができる。もしぼくが監督だったら絶対にこのシーンをとる。前にも書いたように、カバンを枕代わりにして帽子で目をかくして、涙は頬をつたっている。しかし、頬と口もとに少しの微笑が残るような、そんなシーンを最後にとるだろう。

最後に、この作品を弟に読ませて感想を聞くと、以前のぼくの感想と同じようなので、何となくうれしくなってきた。

## 「歴史をさわがせた女たち」

1E (匿名希望)

この本を読んで見て思ったのは、文章表現がおもしろくまた、各女性の雰囲気をも十分に持たせているところである。

この本に出てくる女性で一番関心があったのが、野馬台国の女王・卑弥呼である。一体どういう人物であったのか、まったく興味しんしんであった。現在彼女の正体はわかったようでわからないのである。

昔、王となってから彼女が部屋の奥深くに閉じこもって姿を現わさなかつたのは、彼女の顔がぶさいくなつたからだ、と、社会の時間に冗談を言っていたものがあった。

今、考えればそれは彼女を超能力者、すなわち神に近い存在として民衆の心を握ろうとしたからだと思う。

実際彼女の力はすごかった。彼女が死んだとき、殉死した奴婢が百余人、また彼女のために「怪百歩」という大きな古墳が作られたらしい。卑弥呼のことをクレオパトラの日本版とか書かれてあったが、卑弥呼はそのように、その時代広く卑弥呼自身を知られていなかったもので、あまりクレオパトラ……とは言えないような気がする。

最後に卑弥呼はこのまま謎の女性であって欲しい。彼女ほど神秘的要素を秘めたものはいないから。

話しはもとに帰るが、この本は永井路子という女性が歴史をさわがせた女性について見ているため、女性が女性について書いているので、ぼくたち男にとって読んでみておもしろいのではなからうか。

機会があれば一度読んでみるといいと思います。

## 「ねじれた町」 (眉村 卓)

2A 国光 里和

父親の転勤でQ市にやってきた行夫は、次々と奇妙な体験をする。行夫の出したハガキが明治13年に投函されたことになっていたり、突然回りが過去の時代になったり……。しかもそんなことは、Q市では日常茶飯事で、それらすべては、意志の力によってなされる。

そんな奇妙な毎日の中で、Q市になじめず一人浮き上った存在になっていく行夫。そして鬼の日はやって来た。鬼の日——それは人と人が意志の力を競い合う日——。その日、鬼と戦った行夫は、意外にも、強い意志の力によって鬼を次々とたおしていった。一夜にしてヒーローになった行夫は、Q市が二つに分れていることを知る。古いQ市を守ろうとする人と、新しいQ市を目指す人。新しいQ市を目指す人々の旗手になって戦う決心をした行夫は、古いQ市を守ろうという人々の手によって、仲間と共に異次元へ放り出され、さまよいながら、怨念の世界へたどりつく。

ここで行夫はすべてを知った。その昔、Q藩の頃から虐待されてきた人々の恨み。それが怨念となってQ市に使者を送り、その使者を助けるためにQ市を取りまいている事。だからQ市では、意志の力で何でもできた事。

しかしそれが、古いQ市を守ろうとする人々に逆用されて、かえってQ市は、回りの時代の流れにのれず、昔からの縦の人間関係を維持し保護する結果になってしまっている事を悟った行夫は、怨念がQ市に対する干渉をやめない限り、Q市は永遠に新しく生まれ変わることはできないと考え、怨念を説得し、Q市から怨念の力を消し去った。これによって、Q市は他の町と少しも変わらない町になり、新しい町、新しいQ市へと変わっていった。

これが、この小説の大ざっぱなストーリーですが、この小説を読んで感じた事は、人はたとえわずかずつでも確実に、未来へ向って歩いていくのが自然なんだ、という事です。すごく当たり前の事なんだけど、心底そう感じました。

過去にとらわれた怨念と、過去にしがみつく身分の高い人々が作りだしたものは、ねじれた町、どこか不自然で奇妙な町、その町の象徴が“鬼の日”の鬼でしょう。鬼は古いものを固守しようとする精神の現れ、しいたげられている人の事など考えようもしない人々の自我、この鬼を若者が力を合わせてたおしていく。そしてついには、怨念をもおい払ってしまう。この二つの過去をひきずるものが消えた時、町はねじれた町ではなくなる。若者の未来へ向おうとする力が、ねじれた町を救ったのです。

若者の未来へ向かう力は偉大です。しかし残念な事に、現在その力はあまり発揮されていません。ひょっとすると、私たちの回りにねじれた町があるかもしれません。そこは黒い霧に包まれて見えないだけなのかも。



## 「ゴリラ記」

(戸川幸夫動物文学(2) 新潮社)

2A 平野 康二

この物語は浅岡哲三というH動物園の飼育係が、飼育のむずかしいといわれているゴリラを3匹ひきうけ、愛情によってこの動物のこころとの交流を持つと努め、正月も返上し、妻子にもかまわず、ひたすらその仕事のうちこむ姿を描いている。

この物語を読んで、非常に我々がゴリラという動物を誤解しているということに気がついた。一般に我々人間はゴリラのどう猛そうな顔や体つきから、彼らを恐るべき猛獣と決めてしまっている。実はチンパンジーよりもはるかに純情で、オランウータンよりも気の弱い動物で、ちょっとした変った物音や、違ったものを見るとショックをうけ、すぐに食欲がなくなり、下痢症状を起すのだそうだ。

ゴリラは幼いうちに十分の教育(調教)を施しておかないと、大きくなってからはもうどうしようもなくなる。そのことは世界中の動物園で考えられているのだが、実際に調教して、ゴリラが成長したあとまでも人間の意志に従わせたという例が当時はなかった。しかし、哲三は上野動物園がやっているような飼育だけ

では満足せず、誰も成功したことの無い調教に挑戦するのである。この場面は非常に感動的であった。ゴリラに芸を仕込むことは、あくまで方便なのだ。運動不足になりがちな彼らを、芸をさせることで運動させるということもあったが、それよりも大切なことは、人間（飼育係）とゴリラとの結びつきを強く維持するためであった、と哲三は言っている。しかし、何も知らない見物人達は、「こんなことは動物園のすることではない。あまり人気とりに熱中しているんじゃないか」とか非難した。一つの面だけを見て、他のことを察しないと人間が悪い癖だと思った。

とにかくゴリラを調教するなどということは我々が考えているほど容易なものではないと感じた。

「人間対ゴリラであってはならない。彼自身がゴリラになることだ」と哲三は言っている。

哲三のゴリラに対する打ち込み方は正に命がけであった。彼は、佐賀の葉隠論語として知られている、田代陳基の葉隠聞書の一節の武士道とあるのを飼育道と替えてこう言っている。

『ゴリラ飼育道は死にも狂いなり。いわゆる常識では成らず、気遣いに徹するまでなり』

夜おそくまで働いて、いやに今日は静かだなあと、よく考えてみたら正月元旦だったということもあった。給料日に月給を受取るのを忘れることなどは数えきれなかった、というようなのを読むと哲三の真剣さに頭が下がる思いがした。

またこんな自分を、大馬鹿野郎だと言う人も多いだろうが、それでいいのだと哲三は思う。人間には、それぞれのゆき方があるのだから、自分のようなのがいてもいいはずだ、という所を読んでみて、哲三の生き方にとてもひかれた。なにも一流大学を出て一流会社に入って社長になるのが偉いとは思わない。哲三のような生き方こそ、人間としてりっぱな生き方だと思った。

哲三をとりまく家族もすばらしいと思った。哲三の妻は、哲三がうまくゆかなくてふて腐れて帰ってきたら優しく彼をはげました。また2人の娘たちも、全然仕事ばかりで父親に相手にされなくても、自分なりに父親が必死にゴリラに取り組む姿を見て、父親を尊敬していた。

「世界中で、どこでもやっていない、誰もやっていないことを、やり遂げるといことは大切なことなんだよ。お父さんがやったことで、世界中の人たちが、それを踏み台にしてくれればいいんだよ。月にロケットが飛ぶという世の中に、こんなことはちっぽけなことだと思うかもしれないけど、世の中の進歩というものは、まず誰かがそれをやり、それを踏み台にして、次の人が前進することで成り立つもんだからね」という哲三の最後の言葉は作者の信条でもあり、現代の我

々を戒めているように思える。

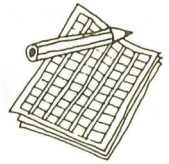
我々は一般に世の中の進歩は、自分一人の力で成されたもののように思い、文明などが進んでいない国をばかにしたり、田舎のような自分たちの住んでる都市よりも発展していない所の人をばかにしたりする風潮があるように思える。我々が現在こうして何不自由なく快適な生活が出来るのも、過去の多くの人々の努力の積み重ねがあったからこそなので、それをしっかり頭に入れて、みんなこのような人々に感謝することを忘れてはならないと思った。

## 「人を動かす」

(D・カーネギー)

を読んで

5C (匿名希望)



私は、まったくと言っていいくらい本など手にしたこともなかったが、友人に読んでみると紹介され、この本を手に入りました。D・カーネギーと言う人の書いた本は、アメリカの読書界においても驚異的に有名であるらしく、中でも「人を動かす」は発刊時はもとより、20年も経過している現在においても最もよく売られ、読まれ続けているそうである。しかし、そのようなことは一切知らない私としては、この本のテーマを見ただけでも、なんとなく堅そうな難かしそうな感じのするものであったが、せっかく紹介してもらったのという気持ちで読み始めたのでした。しかし今読み終えて見て、なんとも「バカに出来ない本」ではありませんか。読み進む程に、現在までの行為の有様、人との接し方、ものごとの考え方などがどんなに自己中心的で、愚かでまちがったものであったのだろうか、それによって他の人に迷惑や不快を与えて来たのだろうかと私自身を考えさせ、反省させる面が多分にこの本の中に含まれているのです。これは過言ではありません。うまく説明できませんが、意味の濃い内容であることはまちがいないと思います。

まだ皆さんにはこの本の内容を話していませんので、これからまえがきの一節を書きます。——社会は人間の集まりである。人と接触せずには一日も社会で暮らせない。だから社会人にとって、人間関係の調整ほど大切なものは他にはないはずだ。それほど大切なものを学校では教えてくれない。社会に出てつまづき失敗を繰り返したあげく、少数の人はそれを体得するが、大多数の人は、生涯その秘訣を会得せずして終わる。——デール・カーネギーは、ここに着目して、人間関係を調整して自分の幸福はもちろん他人の幸福をも増

進する原理を打ち立て、豊富な経験と事例に基づいて、それをきわめて平易に解説した内容の本であり、大きく6部に別れている。

- 1.人を動かす原理
- 2.人に好かれる法
- 3.人を説得する法
- 4.人を矯正する法
- 5.奇跡的効果をおさめる手紙
- 6.家庭を幸福にする法

人間社会においてはあたり前の事、さ細な事に対し、うまく対処しないために相手を怒らせ、きずつけ、そのため自分も不愉快になるという事態になりがちである。この本ではそのような事態を予めさけ、またそうなってしまった時は両者がきずつかず、円満に解決できるように勧めると共に、その最良の解決方法を教えてくれる本であるように思われます。

D・カーネギーの著書には他に人間の悩みについてかれた「道は開ける」や「名言集」などがあります。

私のように読書量のない者がこのように本の紹介をすること自体できるものではありませんが、まだ読んでいない人が居たら1人でも2人でも手にして見て下さい。特に4、5年生の人はもうじき社会に出られると思うので、1度D・カーネギーの「人を動かす」を読んでおく将来何らかの役に立つことがあることと思われまます。



## 「竜馬がゆく」 を読んで

2M 沢田 智裕

歴史の授業で、明治維新について習ったことを思い出してみると、西郷隆盛、桂小五郎、勝海舟などを思い出し、坂本竜馬については、はたごで中岡慎太郎とともに暗殺されたぐらいにしか思っていなかった。

しかし、この司馬遼太郎の小説を読むと坂本竜馬の考え方、魅力、行動にあこがれてしまう。

討幕、佐幕と日本中が混乱していたとき西郷隆盛、桂小五郎などでさえ、薩摩藩、長州藩などと言って、自藩中心の考えだったのに、坂本竜馬は「日本人」と自分を称し、藩中心の考え方をいさめた。

また、維新を行った人々が、日本、自分の藩などのために行動を起こしたのに対し、竜馬は、自分のために維新を行った。

また、彼は「海援隊」を作ったが、「日本の海援隊」そして「世界の海援隊」を目指していた。

だから維新は、その「世界の海援隊」を実現するステップでもあった。

そしてその海援隊にしても、薩長同盟、あるいは大政奉還などを見ても、当時の一般的な考えを完全にくつがえすような考え方、発想、行動、どれをとっても

驚き、あこがれずにはいられない。

彼のそのようなところは、彼の周りに商家的な考え方、郷土という身分、彼の家族、特に姉、その他諸々の影響による。

しかし、彼には何か天命のようなものがあつたように思う。

例えば「竜馬」という名の由来ともなつた彼の背中の毛、そして彼の母が竜の夢を見たという話、桂小五郎などとのめぐり合い。

天の働きかけがあつたようにしか思えない。

そして、彼の功で維新のめどが立つた時、彼を天に呼び戻したように思える。

しかし、彼が、あの時、死なないで「世界の海援隊」を実現させていたらどうなっているだろう。

歴史に「もし」という言葉はないかもしれない。

しかし、彼のあの発想、行動力、考え方、そして有能な部下、それを思うと、歴史が一転どころか二転、三転しそうである。

明治政府を動かした人物が、「世界の海援隊」の一員として、竜馬の下、世界の海を駆けめぐっていたことだろう。

そして、竜馬の魂を受け継いだ男たちが、世界の空を陸を、そして、海を駆けめぐつたに違いない。

竜馬の魂は、自由民権運動などとして受け継がれた。しかし、「海援隊」とそれに託した竜馬の魂、夢も残って欲しかった。

## 「友情」を読んで

1C 迫田 寛

友達とは、友情とは、なんだろうかと考える。真の友、あつい友情、とは、そんなものがあつたかなと…。

野島と自分、なにか似ているような気がする。性格とか。しかし、はっきりちがう。ぼくには悩みをうちあけられる友はない。杉子へのつる気持。自分でいろいろ空想している。自分の意志を強く自信をもっていれば、あんなことには。

杉子にひと目ぼれともいうべき気をひかれる。さぞかし杉子はきれいだったのかな。すぐに結婚をかんがえる。じっくり観察しつきあつて見てかんがえればいいのに。ぼくはじっくりタイプだろう。友にこの“恋”のことはなす。一人で悩むより、他の人の意見を聞いたほうが、広い目でみわたすことができる。この方がずいぶんいい。自分には不幸にも(?)友だちがおらん。しかし、バカさわぎをする気の合う友ならいっばいいいる。幸せだろう。ピンポンをする。自分の好きな人といっしょに。うれしかったろう。ドキドキしたんでは。病気になって、杉子が見まいにこないかなあと

思っている。しかし杉子は、病気だということを気にしていない。腹がたってくる。さみしい。孤独。自分にもそんな気もちがわかるような気がする。自分も経験したような気もする。ぼくは孤独はきらいだ。野島もきらいだったのだろう。杉子にかまってもらいたい。ふりかえってもらいたい。そんな心情、わかる気がする。

ぼくはこの話をよんで、最後に、めでたく厚い友情があって、二人は結婚していくのかと思った。しかしあんなけつまつをむかえるとは。野島の親友大宮に杉子を。もっとも信じていた人にうらぎられるかたちで。腹が立っただろう。くやしかったろう、涙も出たろう。自分が音を立ててくずれていくのもわかったろう。しかし野島は強く立ち上がり返事をかきあげた。彼は、獅子になった。立派な。

親友に裏ざられる。しかし、そこにはなにかが起きている。これが友情だろうか……？



## 「舞姫」 (森 鷗 外)

### 感想及び考察

3E 山 中 和 彦

この文語体による小説は、口語体に慣れ親しんでいて私にとって、かなり難解なものでした。しかし、不思議なもので、意味不明の箇所も数回読み返してみれば、大体の意味は把握できました。

豊太郎とエリスの悲劇のラブ・ストーリー。そう言ってしまうと、この小説は全く無味乾燥なものとなってしまいます。日本古来の、日本人にしか分からない情趣を、文語体という文体は実に上手く伝えられるようです。例えば、「エリスが生ける屍を抱きて千行の涙を注ぎしは幾度ぞ」という文章を、口語体ではたして表現しきれぬものではないでしょうか。おそらくこれほど簡潔に、しかも情趣を持って表現することは不可能でしょう。鷗外は、美しい日本語が使われた時代に生きて、本当に運の良い人だと思えるのです。

ある資料によると、エリスという踊り子は実在の人物であり、エリスが鷗外に愛情を抱いた事実もあるようです。無論、実在のエリスは懐妊してはいません。まして、発狂などしてはいません。しかし、彼女の愛情はかなりのもので、帰国した鷗外を慕ってドイツから来日した事実もあります。このような生々しい事実を高度に文学化して昇華させた所に、鷗外の他にはない才能が発揮されていると考えられるのです。

私には「舞姫」についてあるイメージがありました。それは、フォーク歌手であるよしたくろうがそれと同じ題名の曲を歌っており、それがイメージ化したものです。愛につかれた踊子が「死にましよう」と冗談を言い、男が「死ねないよ」と返事をする。私には、鷗外の舞姫にも似ているように思えます。どこか影のある、若く美しい女性。しかし、一度人を愛すると火の如く激しい女性。それが私の舞姫のイメージでありそれは今でも変わっていません。

この小説の成功は、結末がアンハッピーに訪ずれることにも一因があるようです。愛人に裏切られたショックによる心の病。その上彼女には胎児がある。それを異国に残して故国へ帰って行く男のエゴイズム。そんな悲しさが、文語体を媒介として、読み手の心を打つのではないのでしょうか。

鷗外の時代には、まだまだこのような男女の関係にはタブー的な感覚があったことでしょう。異国の女性との愛情などは、認められようもなかったかもしれません。そんな時代にこの小説を書いた鷗外には、何か先見の明があったように思えます。

家族を養うため、賤業につくことを求められていたエリスに、憐憫の心を寄せた豊太郎の優しさが、結局エリスを不幸にしてしまう。

人生の悲劇を痛烈に感じさせる作品でした。

## 「高瀬舟」 (森 鷗 外)

### を 読 ん で

3E 奥 村 英 樹

この高瀬舟という小説は、今の世の中でもその是非をめぐって、いろいろ考えられている安楽死の問題である。小説の中では、生活が苦になり自殺しかけた弟が死にきれずに苦しんでいる。しかし弟はもう助からない。ただ死を苦しみながら待つだけである。そこで兄が苦しまずして、ひとおもいに死ぬるやうにとどめをさした。もうどうしても命が助からない。あとは苦しむだけ苦しんで息を引きとる。その苦しみを他の者が取り除いてやる。つまり、安楽死である。はたしてこれが是か非か。小説の中の兄はその罪をかぶって島

流しにされた。

これについて、ぼく自身考えてみた。

まず第一に、自分が死ぬ運命にあるとき、ぼくであれば、助からないなら苦しまずに死を選ぶ—安楽死を望むであろう。このとき、安楽死した者は、なんの“とがめ”もないが、させた方はどうだろうか。これが問題である。

傷病者から安楽死をたのまれても、それが家族の者とか知人だとか全くの他人であるとかの場合には、その思いがちがってくる。当然血のつながりがあれば、そうやすやすと殺せはしない。でも安楽死させてやれば、当人は苦しまずにすむ。しかし、今の法律ではどうなっているか知らないが、させた方は、人殺しは人殺しである。かといって、そのまま苦しむ姿を見ているのもつらい。小説では、初めは助けようとしたが最後には、殺してやった。そこを他人に見られて殺人の罪になった。安楽死させる場合は、本人の同意とその他、立合人のような人が要るであろう。ただ言えることはそれだけで、世間の人がどう思うかは全くわからない。難しい問題である。

そしてもう一つ、ぼくの考えだが、安楽死させるということは、その家族なりがお金に窮しているからである、と言えると思う。お金があれば、よい医者に見せたり、よい薬を飲ませたりしてなんとか助けようと思う。この小説では、生活が苦しくて自殺を図り、死にきれずに安楽死したということである。つまりお金がなければどうすることもできず、つい安楽死ということを考えるのではないか。

この小説は、江戸時代の設定で明治時代に書かれた。鷗外が、明治のころから安楽死を取り上げて文章にしていたとは、大変驚いた。しかしこの問題は、明治も今も、そして未来でも同じではなからうか。人間特有の偏った見方で判断しない限りは、ただ一つ言えることは、人の命はこの世でいちばん尊いものであるということで、我々がこれにどのように対処していけばよいか。結局、ぼくには結論が出せなかった。



## 新着図書

### ハイライト

図書委員

兼 本 富 夫

昨年来、もっと学生に図書を利用して貰おう、とキャンペーンをしていますが、これに併行して、学生の読書意欲の湧くような図書の充実も除々に行っています。

図書利用のアンケートで読みたい本として一番多かった趣味の本については、全図書委員の一致で、カラーブックス全503冊(10月現在)を一括購入しました。焼きもの、旅、自然観察、スポーツ等、あらゆる分野が写真と、楽しい文章で一杯です。専用コーナーが設けられると思います。是非一度手にしてみてください。

他に趣味に関するものとして、名曲解説集、釣の名著シリーズ(全7冊)等も用意しました。人気タレント(玉貞治、松山千春、柴田恭兵、ジョン・レノン)の本もあります。

文学の利用者、希望も多いのですが、その求めているのは、推理小説や現代小説等、肩のこらない作品のようです。そこでまず、まとまったものとして、「角川ベスト100」を購入しました。井上靖、アガサクリスティから眉村卓、西村寿行等、現在の読書状況にマッチしているベスト100冊だと思います。単行本も推理小説を中心に購入しつつあります。

人文・社会科学(哲学、芸術、歴史、地理、法学、政治学、文学、語学)は分野も広く、教官の推選、学生の希望により購入しますが、学生用の図書ですから、もっと希望を出して下さい。なるべく学生の希望に沿いつつ図書委員の標語「シエクスピアから勝目梓まで、幅広く購入するつもりです。詳しくは後掲「新着図書案内」を御覧下さい。

## ヒロシマのベストセラーズ

10月の読書週間を前に毎日新聞社が調査した結果によると、高校生の読書量は、1ヶ月に1.3冊だそうですが、1ヶ月に1冊も読まない者は52%もあるそうです。諸君は如何かな?。読書の代わりに、テレビ、音楽、おしゃべりが「楽しいとき」となっています。中学生、高校生になる程、映像化されたもの、及び広告に敏感で、よく読む本は、「機動戦士ガンダム」「ノストラ

ダムスの大予言」「青春の門」「ねらわれた学園」「なんとなくクリスタル」「野菊の墓」「スローなプギにしてくれ」「魔界転生」等が多い。また、タレントによる本「蒼い時」「窓ぎわのトットちゃん」「成りあがり」「ふられ虫の唄」等に人気があり、軽読書傾向が強くなっているそうです。

書店におけるベストセラーズは、長期間トップを占めていた「窓ぎわのトットちゃん」がやや下降気味で、航空機事故の向田邦子女史の「夜の薔薇」や、直木賞受賞の「人間万事塞翁が丙午」(青島幸男)、井上ひさしの「吉里吉里人」等が目につきます。

実は「ヒロシマのベストセラーズ」としたのは、何か広島地方に独自の読書傾向があるかなと思い、この半年間の全国のベストセラーズを出版ニュース等で調べその結果を報告しようとしたのです。しかし新聞による毎週のベストセラーズには多少の差異があっても、月まとめの全国集計ではほとんど差異がないのです。マスコミに影響された読書の実情にびっくりしました。

先日ある新聞に、ベストセラーズや、直木賞、芥川賞の発表は、それ自体が人為的な読書傾向、図書購入傾向をもたらすと、創られた需要が指摘されていました。高校生も社会人も、映画化された、何々賞を受賞した、又は毎日広告を目にするといった、流行に乗った読書が多いようです。

しかし流行する本のみがよい図書だとは云えないでしょう。適度に流行を意識するのもよいでしょうが、本ぐらゐは自分で選び、読書に個性を持って欲しいと思います。それが個性的な人格形成にかなりつながるのではないかと考えます。

(兼本)

- |               |         |
|---------------|---------|
| ③窓ぎわのトットちゃん   | 黒柳 徹子   |
| ④朝日新聞の用語の手びき  | 片山 朝雄 編 |
| ⑤隣の女          | 向田 邦子   |
| ⑥エロチック街道      | 筒井 康隆   |
| ⑦水をだせばみるみるやせる | 西田 達弘   |
| ⑧太平洋にかけた小さな橋  | 一柳 淳子   |
| ⑨吉里吉里人        | 井上 ひさし  |
| ⑩雑学おもしろ読本     | 日本社 編   |

(11月22日の中国新聞より)



## ベストセラーズ

広島 (広文館金座街店調べ)

書名	著者
①夜中の薔薇	向田 邦子
②法華三部経大系 (総論)	五井野 正
③あなたは100歳まで生きられる	西田 達弘
④アクションカメラ術3	矢吹 黎明
⑤トップが語る (下)	広島産学協同懇談会編
⑥地の指	松本 清張
⑦窓ぎわのトットちゃん	黒柳 徹子
⑧雑学おもしろ読本	日本社 編
⑨人間万事塞翁が丙午	青島 幸男
⑩セーラー服と機関銃	赤川 次郎

山口 (文栄堂書店)

①朝日新聞の用語の手びき	片山 朝雄 編
②窓ぎわのトットちゃん	黒柳 徹子
③人間万事塞翁が丙午	青島 幸男
④吉里吉里人	井上 ひさし
⑤あなたは100歳まで生きられる	西田 達弘
⑥もう一度あなた	松田 聖子
⑦夜中の薔薇	向田 邦子
⑧つかさ 葡萄色の風景	伊藤 つかさ
⑨山口市町名覚え書	高橋 文雄
⑩北国通信	渡辺 淳一

東京 (主要書店調べ)

①夜中の薔薇	向田 邦子
②人間万事塞翁が丙午	青島 幸男

## 編集後記

本号で、活版印刷として発行するのが2回目になります。前回は不慣れな点が多く、大分手間取りましたが、それに比べれば今回の編集はまづまづの手際でした。

原稿集めも、学生会文化委員長の協力と、国語科の先生方から6編の読後感想文を推せんしていただくなどで10編が集まり、結果的には「学生の感想文特集」となりました。

今後とも、学生、教官を問わず、学内諸氏の投稿をお願いします。

なお従来「新着図書速報」をH.R.に1部届けておりましたが、本号から「新着図書案内」として、図書だよりに含めることにしました。読書の一助に充分活用して下さい。

(岡本)





# 新着図書案内

## >O 総記<

主題書誌索引 深井人詩(編)  
 中国年鑑1981年版  
 朝日年鑑1981年版  
 ブリタニカ国際年鑑1981年版  
 世界大百科年鑑1981年版  
 世界大百科事典 34：現代  
 研究テーマ事典  
 情報工学講座 17：言語情報処理  
 日本出版文化史 岡野他家夫  
 加藤秀俊著作集 1～12 加藤 秀俊  
 叢書文化の現在

日外アソシエーツ  
 中国新聞社  
 朝日新聞社  
 T.B.S.ブリタニカ  
 平凡社  
 日本ビジネスレポート  
 コロナ社  
 原書房  
 岩波

- 1：言葉と世界
- 3：見える家と見えない家
- 4：中心と周縁
- 6：生と死の弁証法
- 7：時間を探検する
- 8：交換と媒介
- 10：書物—世界の隠喩
- 11：歎ばしき学問

朝日選書  
 168：解説—古代文字への挑戦 矢島 文夫  
 174：歎異抄—現代を生きるこころ 真宗教団連合編  
 175：琉球処分以後(上) 新川 明  
 176： (下)  
 177：みなと紀行 朝日新聞社編  
 179：平家後抄上 角田 文衛  
 181：町工場 森 清  
 182：生活のなかの心理学 乾 孝

NHK海外シリーズ図書 日本放送出版協会  
 ミクロネシア・リポート  
 わがポーランド

新釈漢文大系 明治書院  
 50：墨子(上)  
 69：論衡(中)  
 79：文選(賦篇)  
 85：史記五(世上)  
 86：六(世家下)  
 95：貞観政要(上)  
 96： (下)

ギネスブック81年版 マクワーター、N 講談社  
 むかるみの世界 新野、笑福亭 サンケイ  
 マイクロコンピュータによるBASIC 古賀 義亮 工学図書  
 実例20で知るマイクロコンピュータの活用方法 技術評論社

## 昭和51～55第2種情報処理技術者試験全問題解答集

東京電気出版  
 廣 済 堂  
 昭 晃 堂  
 ラジオ技術社  
 共 立 出 版  
 新 星 出 版 社  
 共 立 出 版  
 廣 済 堂  
 日本書籍出版

## >1 哲 学<

人間と空間 ボルノウ、O.F せりか書房  
 講座・現象学 弘文堂  
 1：現象学の成立と展開  
 2：現象学の基本問題  
 2：現象学の現代思想  
 4：現象学と人間諸科学  
 ハイデgger選集 ハイデgger 理想社  
 11：真理の本質について、プラトンの真理論  
 20：有についてのカントのテーゼ  
 28：現象学と神学  
 劣等感の心理 関 計夫 金子書房  
 世界の聖域 講談社  
 2：ペルシアの聖都  
 3：デルフォイの神域  
 4：エルサレム  
 5：メッカ・メディナ  
 6：ガンジスの聖地  
 8：ヒマラヤの僧院  
 9：セイロンの仏都  
 14：アッシジの修道院  
 17：マヤの聖壇  
 若者たちよ、自立をめざせ  
 スチュアート・ピッケン大和書房  
 相手の身になって考える 上野 轟 有斐閣  
 自分の生きかた ランモナ、S.アダムス 三笠書房

## >2 歴 史<

全訳 世界の歴史教科書シリーズ 帝国書院  
 1：イギリス I  
 2： ( ) II  
 3： ( ) III  
 4： ( ) IV  
 5： ( ) V  
 6：インド  
 7：フランス I  
 8： ( ) II  
 9： ( ) III  
 10： ( ) IV



>4 自然科学<

データ解析の方法 プラント, S みすず書房  
 スペクトル解析 日野 幹雄 朝倉  
 脳のはたらきと独創 川上・本間 〃  
 非線形計画法の理論と応用 ホイットル, P 培風館  
 微分積分学精説 岩切 晴二 〃  
 基礎物理数学3 講談社  
 大図説 減びゆく動物 サルバドールF 小学館  
 自己増殖オートマトンの理論 フォン ノイマン 岩波  
 チャート式数学 1, 2 B 橋本 純次 数研出版  
 チャート式基礎からの数学 1, 2 B 塙江 誠 〃  
 解法講座 基礎をかためる数1, 数2 B, 数3 矢野健太郎 科学新興社  
 理解しやすい数学 1, 2 B 小川庄太郎 文英堂  
 現図と展開画法 中島 實 日刊工業  
 図学演習 萩 三二 学献社  
 解明物理 1, 2 計算 永田 武 文英社  
 テキストブック電磁気学 田中 勝広 日本理工出版会  
 電磁気学 末松 安晴 共立出版  
 初歩者のための化学入門 萩野 典夫 オーム社  
 化学15講 大学自然科学教育研究会(編) 東京教学社  
 教養の新化学 〃 〃  
 化学の開眼 吉田 高年 〃  
 化学教材薬品 高中 順一 三共出版  
 化学一般 高瀬慎一郎 〃  
 化学・物質と現象 村上・小平 〃  
 環境理解のための基礎化学 Moore, 東京化学同人  
 分析化学1, 2, 3 鎌田 仁 コロナ社  
 地熱エネルギー読本 森・陶山 オーム社  
 西村嘉助先生退宮記念地理学論文集 古今書院  
 地球科学講座 共立出版  
 8: 構造地質  
 材料科学のための結晶学 万波 通彦 誠文堂新光社  
 伊豆須崎の植物 大阪保育社  
 那須の植物誌 〃  
 広島市医師会史 第2篇 広島市医師会  
 日本人の脳 角田 忠信 大修館  
 野外ハンドブック 山と溪谷社  
 1: 山菜 山田 昭彦  
 2: 蝶 藤岡・大屋  
 3: きのこと 今関 六也  
 4: 野鳥 高野 伸二  
 5: 雲 館田陸治郎  
 6: 樹木 富成 忠夫  
 7: 〃 〃  
 8: 高山植物 小野 幹雄

9: 魚(海水編) 益田 一  
 10: 〃(淡水編) 桜井 淳史  
 野草ハンドブック 山と溪谷社  
 1: 春の花  
 2: 夏の花  
 3: 秋の花  
 現代の科学  
 1: 重力の話  
 2: 化学の歴史  
 3: 極低温の世界  
 4: 結晶の科学  
 5: 量子エレクトロニクス  
 6: やさしい確率論  
 7: 自然を解く数学  
 8: 音と楽器  
 9: 流れの科学  
 10: 音波・光波・電波  
 11: 静電気の話  
 12: ヨハネス・ケプラー  
 13: 相対性理論と常識  
 14: ニュートン  
 15: 水の伝記  
 16: 自然の驚異  
 17: 海洋の科学  
 18: 磁石の話  
 19: ひろがる宇宙  
 20: 熱機関  
 21: 発明・発見・創造  
 22: 地球の年齢  
 23: 電子と波  
 24: コウモリと超音波  
 25: マイケルソンと光の速度  
 26: ファラデー・マクスウェル・ケルビン  
 27: 一般相対性理論  
 28: 波と情報  
 29: レーザーとホログラフィー  
 30: 現代の物理学  
 科学新興社 モノグラフ  
 1: 漸化式  
 2: 不等式  
 3: ベクトル  
 4: 3角関数  
 5: 最大と最小  
 6: 対数関数  
 7: 恒等式  
 8: 微分方程式  
 9: 数学史  
 10: 写像  
 11: 微分の諸定理  
 12: 融合問題  
 13: 複素数  
 14: 軌跡と領域  
 15: 幾何学  
 16: 集合と論理  
 17: 方程式の理論と解法

18: 順列・組合せと確率  
 19: 数列と級数  
 20: 整数  
 21: 図形と方程式  
 22: 積分  
 23: 確率と統計  
 24: 公式集  
 25: 数表  
 26: 1次変換と行列  
 27: 線形計画法  
 28: 在庫の問題  
 29: 電卓と数学  
 30: 集合と構造  
 31: 空間図形  
 32: 記号と演算  
 33: 数の話  
 34: 微分

おもしろい植物学の話 イフチェンコ 文一総合出版  
 黒潮に生きるもの 鈴木 克美 東京書籍  
 昆虫誌 矢島 稔 〃  
 詳解 物理 I・II 計算問題の解き方 三輪 光雄 昇龍堂出版  
 物理 I・II 計算の考え方解き方 影山誠三郎 文英堂  
 基礎化学教室 桜内 雄二 三共出版  
 詳解化学 計算問題の解き方 表 美守 昇龍堂  
 教養としての化学 長島 弘三 裳華房  
 カバの文明論 西山登志雄 ブロンズ社  
 図学問題集 東京大学出版会  
 図学 山口・山内 内田老鶴圃新社  
 図学概説 福永 節夫 培風館

>5 工 学<

コンピュータによる工学問題の計算法  
 プレビア・C プレイン図書  
 海洋エネルギー読本 本間 琢也 オーム社  
 コンピュータによるダイナミックシステム論  
 高橋 安人 科学技術社  
 流体一固体二相流 森川 敬信 日刊工業  
 流れの可視化ハンドブック  
 浅沼 強 朝倉  
 初等力学 森口 繁一 培風館  
 材料力学演習 金沢 武 〃  
 精解演習自動制御理論 長谷川健介 広川書店  
 自動制御機器便覧 オーム社  
 シーケンス制御入門 電気書院  
 技術の歴史 筑摩書房  
 12: 20世紀 その2  
 14: 20世紀 その4  
 例解演習実験計画法 小西 省三 日刊工業  
 土木機材事典 産業調査会  
 芦田川河口堰 工事編 建設省中国地方建設局福山  
 騒音と騒音防止 守田 栄 オーム社  
 工場騒音対策の実際 吉岡 光春 コロナ社

実践としての都市再開発 藤田 邦昭 学芸出版社  
 生活空間の未来像 上田 篤 紀伊国屋  
 都市の居住政策～人間らしく住む～ 三村 浩史 学芸出版社  
 新体系土木工学 技報堂  
 11: 建造物の耐震解析  
 12: 土木構造設計法  
 18: 土の力学 (III)  
 19: 〃 (IV)  
 24: 海の波の水利  
 27: 歴青系材料  
 29: フレッシュコンクリート  
 34: プレストレストコンクリートの力学  
 37: 構造用鋼材  
 49: 社会資本と公共投資  
 57: 都市計画 (III)  
 68: 鉄道 (III)  
 76: ダムの施工  
 79: 漂砂と海岸保全施設  
 81: 港湾計画  
 86: 環境保全 (I)  
 89: 下水道  
 92: エネルギー計画  
 93: エネルギー施設 (I)  
 99: 土木施工

建築古事記 岡野 忠幸 東京美術  
 デイメンション ムーア・チャールズ 新建築社  
 建築家と職能 山本 正紀 清文社  
 西澤文隆: 伝統の合理主義 西澤 文隆 丸善  
 建築神話の崩壊 タフーリ・マンフレッド 彰国社  
 山本学治建築論集 1: 歴史と風土の中で 鹿島出版会  
 日本の建築 (明治・大正・昭和) 4. 10 三省堂  
 現代の建築家: 楨文彦・丹下健三 鹿島出版会  
 SD選書 〃  
 165: 空間と情緒 箱崎 総一  
 166: アドルフ・ロース 伊藤 哲夫  
 167: 水空間の演出 鈴木 信宏  
 168: モラリティ D. ワトキン  
 169: ベルシア建築 A.V. ポープ  
 171: 装置としての都市 月尾 嘉男  
 磯崎新十篠山紀信建築行脚 3. 8 六耀社  
 大学講座建築学計画編 3 建築計画 共立出版  
 建築設計事務所の経営 田中 清 相模書店  
 図説 日本住宅の歴史 平井 聖 学芸出版社  
 日本の民家 学習研究社  
 1: 農家I 北海道・東北・関東  
 3: 農家III 近畿  
 4: 農家IV 中国・四国・九州  
 ル・コルビュジェの生涯 フォン・モース 彰国社  
 ガウディ讃歌 粟津 潔 現代企画室

古代ギリシャの都市構成	ウィッチャーリー	相模書房	8:電気自動車・新形原動機		
建築家マッキントッシュ	小川 守之	〃	9:動力伝達装置		
ドイツ建築史 上・下	三宅 理一	〃	10:電装品・車体装備品・エンジン部品		
わすれがちな設計のポイント	光安 義光	〃	11:ステアリング・サスペンション		
住まいの補修と維持管理	森川 育告	〃	12:タイヤ・ブレーキ		
住まいの設計ノートから	中善寺登喜次	〃	13:乗用車の車体		
ルイス・カーン論	工藤 国雄	彰国社	14:トラック・バスの車体構造		
DA建築図集 住宅1	〃	〃	15:モータスポーツ・二輪自動車		
〃 体育館	〃	〃	16:自動車の安全		
日影図作成の演習と実務	〃	〃	17:自動車と環境		
ライトの装飾デザイン	ハンクス	〃	18:自動車の製造管理		
建築の音響設計	永田 穂	オーム社	19:自動車の製造法		
風力エネルギー読本	本間 琢也	〃	20:自動車の販売流通システム		
現代照明環境システム	石川 太郎	〃	21:自動車の整備I		
現代光工学の基礎	飯塚 啓吾	〃	22:自動車の整備II		
マイクロ波回路	末武 国弘	〃	別:自動車に関する法規・規格・統計		
超LSI技術	垂井 康夫	〃	原子炉の物理	ジェイクマン	同文書院
防音建築	オシボフ	現代工学社	基礎電気工学	遠藤 貞一	日刊工業
建築設計資料集成 4:単位空間II	丸	丸	強電工学大要	小泉亮一郎	学献社会
林昌二:私の住居・論	林 昌二	〃	電気学会大学講座		電気学会
e+p~設計+計画~29	〃	集文社	自動制御理論		
傾斜地住宅	ヴォルフ	〃	電気磁気学演習		
タウンハウス	ペーターズ	〃	電動応用工学	藤田 宏	森北出版
室内環境学	瀬沼 勲	三共出版	パワーエレクトロニクスと電動制御		
建築環境工学概論	金谷 英一	明現社	ステッピング・モーターの基礎	古賀 高志	東京電機大学出版局
材料の強さ	塩崎 義弘	〃	見城 尚志		総合電子出版社
機械工学大系			太陽光発電	高橋 清	森北出版
11:気液二相流	赤川 浩爾	コロナ社	データ伝送	ベネット	ラテイス
回転機械のつりあわせ	三輪 修三	〃	レーザーの基礎と応用		昭晃堂
精密工学講座 11:切削工学	〃	〃	光エレクトロニクスの基礎	ヤリーブ	丸 善
機械工学基礎シリーズ 12:機械数学	朝	倉	用水廃水便覧		
機械工学講座	共立出版		音声の合成と認識	中田 和男	総合電子出版社
2:弾性学			光・量子エレクトロニクス		
12:機械設計			電子回路講座 3:パルス回路	藤井 陽一	共立出版
材料力学 上・下			精解演習 電子回路論1+3		朝 倉
潤滑油及び潤滑	小川 勝	裳華堂	非鉄金属および合金	濱住松二郎	広川書店
トライボロジー	チコス	海文堂	電池と未来発電	高村 勉	内田老鶴圃新社
機械設計者のための検図マニュアル	遠藤 健児	工業調査会	生活と化学知識	川本 和明	電子通信学会
実例マイコン応用マニュアル			建築技術選書		三共出版
機械設計システム	小川 潔	森北出版	24:鉄骨構造の話		学芸出版
0リング		近代編集社	25:建物の断熱と防湿		清文社
自動車工学全書		山海堂	26:建物と地震災害		刀水書房
1:自動車の歴史と社会			すまい	西山 卯三	学芸出版
2:自動車の基本計画とデザイン			住みよい家づくりの知恵		清文社
3:自動車の性能と試験			木造住宅施工読本	富田 辰雄	刀水書房
4:ガソリンエンジン			広島平和記念館と丹下健三		
5:ディーゼルエンジン			ここに注意 流動化コンクリート工法	山崎 荒助	三友社出版
6:ロータリエンジン・ガスタービン			環境計量士の基礎知識	小川 鑑	理工図書
7:自動車の燃料・潤滑油			環境計量士出題傾向と重要例題集		東京教育情報センター
			アメリカの自動車文明と日本		〃
			下川 浩一		文真堂

晴れた日にはGMが見える  
 バトリック・ライト ダイアモンド社  
 ものの強さの秘密 J.W.Mortin 共立出版  
 実験計画法入門 条件の決め方  
 磯部 邦夫 日刊工業  
 金属組織学 深海 繁 理工図書  
 合金状態図の解説 清水 要蔵 アグネ  
 金属の構造と強さ ラビノヴィチ 東京図書  
 手巻きウインチの設計 理工学社  
 金属の疲労と設計 川田 雄一 オーム社  
 電気接続図の見方・書き方  
 中島 吉雄 〃  
 やさしいラジオ製作入門 友近 〃  
 プログラマブルコントローラ入門 〃  
 計測制御演習ノート 科学書籍出版  
 設計のための材料力学 福田 秀雄 廣川書店  
 機械工学読本 〃  
 材料力学の基礎 大石 正昭 啓学出版  
 だれにでもわかるマイコンの作り方・使い方  
 河内 洋二 〃  
 これでわかったトランジスタ回路  
 大木 義磨 〃  
 これでわかったトランジスタIC回路の見方・考え方  
 〃  
 図解デジタルICの基礎  
 白土 義男 東京電機大学出版局  
 トランジスタ回路の基礎  
 田丸・野島 〃  
 電気工学入門演習 電気機器1  
 永尾 道広 学献社  
 基本 マイクロコンピュータ  
 バーナ/ポーラット 培風館  
 プログラマブルコントローラを活用する  
 斉藤 仁志 電気書院  
 屋内照明のガイド 〃  
 照明の省エネルギー技術 〃  
 実験第2種合格テキスト6 機器・材料の9週間 〃  
 トランジスタと半導体入門基本18章  
 三船 陽介 電波新聞社  
 デジタルIC入門基本18章  
 津川 順 〃  
 絵で見るレーザー 広川 明 誠文堂新光社  
 100万人のラジオ技術 〃  
 初歩のラジオ技術 〃  
 カラービデオ カメラとその使い方  
 原 正和 日本放送出版協会  
 現場技術者のための、TRカラーテレビの原理と調整修理  
 啓学出版  
 私だけのマイコン設計&製作  
 CQ出版社  
 日本の技術はなぜ優秀か  
 飛岡 健 エール出版社  
 松下幸之助の創業時代 豊沢 豊雄 実業之日本社  
 建築環境工学 明現社刊  
 欠陥住宅をなくすために 〃  
 住まいの知恵 三川 榮吉 学芸出版社

新建築 建築戦後35年史 新建築社  
 >6 産 業<  
 現代の資源・エネルギー問題 ミネルヴァ書房  
 明治期鉄道史資料 日本経済評論社  
 油濁の海 田尻 宗昭 日本評論社  
 >7 芸 術<  
 日本古寺美術全集 集英社  
 7：四天王寺と河内の古寺  
 9：神護寺と洛西・洛北の古寺  
 17：鎌倉と東国の古寺  
 20：観世音寺と九州・四国の古寺  
 25：三十三間堂と洛中・東山の古寺  
 ルドルフ・シュタイナー  
 上松 佑二 PARCO出版  
 デ・スタイル オヴリー 〃  
 西洋美術全史 グラフィック社  
 1：オリエント・エーゲ海美術  
 3：ローマ美術  
 5：初期中世美術  
 日本のたくみ 白洲 正子 新潮社  
 現代日本画家素描集 日本放送出版協会  
 18：吉岡堅二  
 原色浮世絵大百科事典 大修館  
 1：歴史  
 5：風俗  
 7：作品二 清長一歌磨  
 8：作品三 写楽一北斎  
 9：作品四 広重一清親  
 10：風俗絵師と現代版画家  
 新修日本絵巻物全集 角川  
 別巻2：天神縁起絵巻 外  
 バウハウス ネイラー・ギリアン PARCO出版局  
 音楽之友社  
 最新名曲解説全集  
 13：室内楽曲Ⅲ  
 16：独奏曲Ⅲ  
 17： 〃Ⅳ  
 21：声楽曲Ⅰ  
 22： 〃Ⅱ  
 23： 〃Ⅲ  
 24： 〃Ⅳ  
 山の博物誌 西丸 震哉 実業之日本社  
 釣の名著 アテネ書房  
 1：釣遊秘術 釣師気質 石井 研堂  
 2：釣の本 佐藤 垢石  
 3：釣心魚心 佐藤惣之助  
 4：釣ざんまい 中村 星湖  
 5：釣の裏の手 上田 尚  
 6：釣魚譜 大橋 青湖  
 7：露伴釣談 幸田 露伴  
 鮎つりの名著 アテネ書房  
 1：鮎のどぶ釣り 岡部 丹虹  
 2：鮎を釣るまで 藤田 栄吉  
 3：鮎の友釣 佐藤 垢石  
 別冊：鮎・友釣のコツ 岡部 豊物

松山千春 松山 千春 立 風 書 房  
 素顔のジョン・レノン シンシア・レノン シンコー・ミュージック  
 熱風 柴田 恭兵 集 英 社  
 志ん生長屋ばなし 古今亭志ん生 立 風 書 房  
 回想 王 貞治 勤 文 社  
 将棋好敵手物語 天狗 太郎 光 風 社 出 版  
 書の本 III 青山 杉雨(編) 筑 摩 書 房

168：平将門の乱 福田 豊彦  
 169：近代政治思想の誕生 佐々木 毅  
 170：道頓堀裁判 牧 英正  
 171：個人主義の運命 作田 啓一  
 172：殺物メジャー 石川 博友

角川文庫 角 川  
 エーゲ海に捧ぐ 池田満寿夫  
 九月の空 高橋三千綱  
 さらばモスクワ愚連隊 五木 寛之  
 何でも見てやろう 小田 実  
 ジャイアンツは負けない つかこうへい  
 スローなギにしてくれ 片岡 義男  
 乱れからくり 泡坂 妻夫  
 ジャッカルの日 F. フォーサイス 阿部 次郎  
 三太郎の日記 大野 晋  
 日本語について 夏目 漱石  
 こころ 芥川龍之介  
 羅生門・鼻・芋粥 宮沢 賢治  
 銀河鉄道の夜 井伏 鱒二  
 ジョン万次郎漂流記 本日休診 小林 秀雄  
 無常という事 太宰 治  
 人間失格・桜桃 石坂洋次郎  
 陽のあたる坂道 石川 達三  
 稚くて愛を知らず 河上徹太郎編  
 中原中也詩集 中村慎一郎編  
 立原道造詩集 柳田 国男  
 遠野物語 武田 祐吉 訳注  
 新訂 古事記 〃 穎原・尾形 訳注  
 〃 おくのほそ道 島津 忠夫 訳注  
 〃 百人一首 井上 靖  
 〃 淀どの日記 松本 清張  
 或る「小倉日記」伝 石原慎太郎  
 太陽の季節・若い獣 開高 健  
 裸の王様・流亡記 安岡章太郎  
 海辺の光景 吉行淳之介  
 薔薇販売人 遠藤 周作  
 海と毒薬 円地 文子  
 女坂 有吉佐和子  
 紀ノ川 田辺 聖子  
 感傷旅行 三浦 綾子  
 石ころのうた 大城 立裕  
 カクテル・パーティー 宮原 昭夫  
 誰かが触った 大岡 昇平  
 中原中也 源氏 鶏太  
 英語屋さん・初恋物語 今 東光  
 お吟さま 水上 勉  
 五番町夕霧楼 北 杜夫  
 どくとるマンボウ航海記 黒岩 重吾  
 背徳のメス 杉森 久英  
 天才と狂人の間 安藤 鶴夫  
 巷談本牧亭 山口 瞳  
 むにゃむにゃ童子 城山 三郎  
 辛酸 立原 正秋  
 白い罌粟 渡辺 淳一  
 冬の花火

>8 語 学<

日本語の起源をめぐる論争  
 村山 七郎 三 一 書 房  
 広辞苑 新村 出(編) 岩 波  
 私家版 日本語文法 井上ひさし 新 潮 社  
 昭和日本語の方言 三 弥 井 書 店  
 5：中国山陰道二要地方言  
 研究社 新英和大辞典 研 究 社  
 新・英語会話 田崎 清志 日 本 放 送 出 版 協 会  
 現代独和辞典 ロベルト 三 修 社

>9 文 学<

白水社 世界の文学 白 水 社  
 ドワービン氏の冬 バーナード・マラマツ  
 不死の人 J.L.ボルヘス  
 宣告 上・下 加賀 乙彦 新 潮 社  
 幼き日のこと 井上 靖 毎 日 新 聞 社  
 アメリカ文学と自然 東山 正芳 南 雲 堂  
 イギリスの詩 青木 巖 荒 竹 出 版  
 シェイクスピア6大名著 シェイクスピア 河 出 書 房 新 社  
 水戸光圀・花と風の巻 村上 元三 学 習 研 究 社  
 織田信長 南條 範夫 〃  
 西郷隆盛 天命の巻 海音寺潮五郎 〃  
 〃 雲竜の巻 〃  
 〃 王道の巻 〃  
 父と子の炎 小林 久三 角 川  
 無頼船 西村 寿行 〃  
 カルチャトピア90 糸川 英夫 CBSソニー出版  
 偶像本部 清水 一行 双 葉 社  
 遙かな坂 上・下 夏樹 静子 毎 日 新 聞 社  
 麗しき白骨 渡辺 淳一 〃  
 こんな幸福もある 佐藤 愛子 海 社

岩波新書 岩 波  
 155：都市と交通 岡 並木  
 156：エンジンの話 熊谷清一郎  
 157：不安の病理 笠原 嘉  
 158：日本の私鉄 和久田康雄  
 159：ウイルスとガン 畑中 正一  
 160：カナダの素顔 新保 満  
 161：パリ1930年代 ベルヴァル  
 162：胃がん 榊原 宣  
 163：徐兄弟 獄中からの手紙 徐京植編訳  
 164：巨大古墳の世紀 森 浩一  
 165：食糧と農業を考える 大島 清  
 166：素粒子の世界 鈴木・釜江  
 167：マンボウ雑学記 北 杜夫

ほらふきココラテの冒険  
 津軽世去れ節  
 怪しい来客簿  
 オイディプスの刃  
 追うもの  
 ラブ・ストーリー  
 不連続殺人事件  
 本陣殺人事件  
 能面殺人事件  
 憎悪の化石  
 影の告発  
 夜の終る時  
 華麗なる醜聞  
 風塵地帯  
 腐蝕の構造  
 玉嶺ふたたび  
 野獣死すべし  
 蒼き海の伝説  
 エンタープライズ爆破計画  
 殺意という名の家畜  
 蒸発  
 動脈列島  
 オリент急行殺人事件  
 笑う警官  
 法王の身代金  
 きまぐれロボット  
 農協月へ行く  
 復活の日  
 産霊山秘録  
 ねらわれた学園  
 タイム・スリップ大戦争  
 死霊狩り  
 白熱  
 神々の埋葬  
 エイリアン  
 星の牧場  
 ベロ出しチョンマ  
 北極のムーシカミーシカ  
 ノンちゃん雲に乗る  
 貝になった子供  
 木馬が乗った白い船  
 ぼっぺん先生の日曜日  
 不思議の国のアリス  
 日本人とユダヤ人  
 誰のために愛するか  
 改訂新版 ものの見方について  
 あ、野妻峠  
 われら動物みな兄弟  
 表の論理・裏の論理  
 人間へのはるかな旅  
 裸のサル

森村 桂  
 長部日出雄  
 色川 武夫  
 赤江 爆  
 谷 克二  
 E. シーガル  
 坂口 安吾  
 横溝 正史  
 高木 彬光  
 鮎川 哲也  
 土屋 隆夫  
 結城 昌治  
 佐野 洋  
 三好 徹  
 森村 誠一  
 陳 舜臣  
 大籾 春彦  
 西村 寿行  
 藤原 審爾  
 河野 典生  
 夏樹 静子  
 清水 一行  
 A. クリステイ  
 シューヴァル・ヴァール  
 クリアリー  
 星 新一  
 筒井 康隆  
 小松 左京  
 半村 良  
 眉村 卓  
 豊田 有恒  
 平井 和正  
 田中 光二  
 山田 正紀  
 フォスター  
 庄野 英二  
 斉藤 隆介  
 いぬいとみこ  
 石井 桃子  
 松谷みよ子  
 立原えりか  
 舟崎 克彦  
 キヤロル  
 イザヤ・ベンダサン  
 曾野 綾子  
 笠 信太郎  
 山本 茂実  
 畑 正憲  
 会田 雄次  
 森本 哲郎  
 D. モリス

大学短大卒程度 一般知能試験 57年度版  
 大学短大卒程度教養試験問題 57年度版  
 大学生の作文・論文の基礎 57年度版  
 大学生の課題作文の書き方 57年度版  
 大学生の適性診断 57年度版  
 就職英語 これだけはやっとう 57年度版  
 電気・電子就職試験 57年版  
 就職・受験時事社会常識試験 '82  
 最新考え方解き方 土木就職試験問題集  
 公務員採用試験全書 1981  
 国家試験資格試験全書 1981  
 ダイヤモンド・会社要覧 1981  
 全上場会社版・非上場会社版  
 主要 会社機械就職試験問題対策と解答  
 最新 電々公社員試験 '82  
 大学生用面接試験 57年度版  
 大学卒 常識問題  
 国鉄職員試験問題傾向と対策 57年度版  
 中級公務員試験合格情報 57年度版  
 大学卒面接作文 57年度  
 一級建築士最新重要 800題  
 一級建築士受験直前総まとめ  
 一級建築士試験問題全集 56年版  
 二級建築士試験問題選集 56年版  
 二級建築士試験問題全集 建築構造・建築施工 56年版  
 二級建築士試験問題全集 建築計画・建築法規 56年版  
 環境自書 56年版  
 労働自書 56年版  
 建設自書 56年版  
 経済自書 56年版



就職関係図書  
 理工学部就職試験 57年版  
 57年版 精解中級国家公務員試験傾向対策